

2020年8月号へのご意見

優れた問いを投げかけた8月号の特集

8月号の特集では、深く考えさせられる問いを投げかけられた。北海道旭川東高校の松井恵一先生と福井県・私立福井南高校の浅井佑記範先生の対談で示された、コロナ禍における教師の気づきとそれを昇華する環境が、教師が次に進む原動力になるといった指摘に加えて、長野県蘇南高校の小川幸司校長が示した、トップダウンでもボトムアップでもない「対話による集合知」が重要だという考えに、大きな衝撃を受けた。さらに、吉田梅乃さんの「変えられないことではなく、変えられることに注力しよう」という言葉から、教師という職業を一度相対化して捉え直すべきではないかという問いを投げかけられたように思えた。愛知県立日進西高校 野々山新

その場しのぎではなく、あり方を見直したい

8月号の特集のすべての記事は、「コロナ禍において、今取り組んでいること」ではなく、「コロナ禍を機に考えたこと」が通底したテーマになっていた。感染予防のために、授業や学校行事、部活動などの見直しを迫られたが、その場しのぎの変更にせず、様々な視点からそのあり方を考え直すチャンスだと捉えて、今後のことを考えていくべきだろう。コロナ禍が今後いつまで続くのか、誰にも分からない。実施できないことがあるのならば、それに代替する方法を考えたり、そもそもそれが必要なのかを原点に立ち返って見直したりする機会としたい。

山形県立米沢東高校 高橋英路

新連載で進路指導に役立つ新たな情報をキャッチ

8月号からの新連載「これからの進路指導のための世の中トレンド解説」で取り上げられた「スマートシティ」は、実社会と大学等での研究とがどう結びついていくのかが具体的で分かりやすかった。進路指導だけでなく、探究学習の指導にも役立ちそうだ。

東京都立北園高校 鈴木公美

過去と現在の比較と教材の工夫に共感

8月号の「実践 アクティブ・ラーニング」では、栃木県立宇都宮女子高校の黒川治彦先生が、生徒の実態に応じて教材を工夫している点に共感した。アクティブ・ラーニング(以下、AL)は、グループワークありきで考えられる傾向があるが、生徒の思考を能動的にするという本質を改めて認識した。そうしたALの実現のためには、生徒同士が意見を言いやすい雰囲気づくりが、教師に求められている。

東京都立羽村高校 久富悠生

実業高校の先進事例が励みになった

8月号の「指導変革の軌跡」で紹介された愛知県・名古屋市立工芸高校の取り組みは、実業高校で「高校生のための学びの基礎診断」を実践する意義を整理する上で参考になった。以前訪問したことのある同校は、実業高校のフラッグシップ的な存在であり、今回の記事は励みにもなった。福岡県・福岡市立博多工業高校 森永明子

OFF SHOT



石川県・私立星稜中学校・高校でのオンライン・ワークショップの取材を終えて校舎を出ると、グラウンドからサッカー部の大きなかけ声が聞こえてきました。本田圭佑選手が在籍していた同校のサッカー部は、全国大会の常連として有名です。この日は悪天候でしたが、部員は懸命にボールを追っていました。その様子を見ると、ワークショップで先生が語られていた、臨時休業中に生徒が見せた向上心のことを思い出しました。制約のある中で歯がゆい思いをしながらも、工夫を凝らして「今、自分にできること」に取り組んでいた生徒たち。サッカー部の部員も、大会が中止になったり、思うように練習ができなかったりと、悔しい思いをしたことでしょう。そのような生徒に寄り添っていくために、「今、私たちにできること」を考え続けようと、身が引き締まる思いを抱きつつ帰路につきました。(朝比奈)



『VIEW21』高校版が
電子ブックに
なりました!

『VIEW21』高校版は2020年4月号から電子ブックでご覧いただけるようになりました。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

VIEW21 最新号 検索

VIEW21 高校版 2020 12 月号

次号は 12月15日発行 (予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です